

令和7年度全国農業大学校等意見発表要旨

農業大学校名 兵庫県立農業大学校 学科名 畜産専攻 学年 1年 氏名 どいしょうや 土井 勝 矢

1 課題 兄として誇れる仕事を

2 意見・提言

(1) 淡路島への転居

私は小学1年生の頃、父を仕事上の事故で亡くし、4年生の春に父方の曾祖父母が住んでいる淡路島へ転居した。曾祖父母は水稲や淡路島特産の玉ねぎ栽培の傍ら、但馬牛の繁殖雌牛10頭を小さな牛舎で世話していた。当時の曾祖父母は80代で、曾祖父は杖なしでは歩けない状態であった。

小学6年生の時、私の人生を変える転機が訪れる。曾祖父が体調を崩し緊急入院し、「牛飼いをやめる」と言い出したのである。その結果、我が家の牛を知り合いの農家に売るなどして、2頭まで減ってしまった。牛が減っていくにつれ寂しくなる牛舎、そして元気のない曾祖父を見て、私はこのままではだめだと思い、「母と私に牛を飼わせてほしい」と曾祖父母に直談判した。曾祖父母は「ぜひ継いでほしい」と喜んでくれ、母は牛の世話を習い始めた。私自身も淡路高校に進学すると同時に、本格的に牛飼いを手伝うようになった。高校生の際は、農作物の栽培や機械の運転を勉強しながら、牛飼いを続けた。

(2) 兵庫県立農業大学校への進学

高校卒業後はより詳しく但馬牛について学ぶため、兵庫県立農業大学校に進学した。農大では新しい発見の連続であった。朝早くからの牛舎作業や、牛の発育や状態に合わせての給与飼料量の決定など、牛飼いはきめ細かな管理が必要であることを学んだ。40日間の農家派遣実習では地元である南あわじ市の但馬牛繁殖農家にお世話になり、牛の世話や自給飼料であるWCS作成作業も経験した。研修中は淡路島の畜産共進会にも挑戦し、我が家の牛を出品した。結果は振るわなかったものの、来年も挑戦したいと思っている。

(3) 多様な人と共に働く農業

私は家業の牛飼いを継ぐことに加え、もう一つ夢がある。それは障害者と一緒に農業をすることである。私の弟は中学1年生で自閉症スペクトラムという発達障害を持っているが、得意なことに対しては驚くほどの集中力を持っており、将来は私と一緒に農業をしたいと話している。現在、南あわじ市では農家の減少が問題となっている。2005年に約4,000戸あった販売農家は、2020年には約2,800戸まで減少した。そこで、淡路島の農業を将来にわたって維持していくため、私は農福連携の推進を考えている。農福連携とは、障害者が農業分野で活躍し、自信や生きがいを持って社会参画を実現する取組である。農業側にとっても担い手不足や高齢化の解決につながる点で、大きな意義を持つ。農大卒業後、まずは家業を規模拡大し、障害者の受け入れが可能になった段階で、農作業に特化した就労継続支援事業所を開設したいと考えている。障害者は、その特性により理解の仕方がそれぞれ異なるが、弟であれば、自身の経験を生かし、障害者の気持ちに寄り添い、農作業を教えられる存在になると期待している。私自身も、母や児童発達支援事業所のスタッフから障害者との接し方を学び、わかりやすく農業を教えられるよう努力したい。将来的には、私が運営する就労継続支援事業所で農業の知識や人との関わり方を身につけてもらい、その後は障害者に理解のある農家に正社員として雇ってもらうことが目標である。弟と同じように、得意なことがあるにもかかわらず、障害を理由に就労が難しい人たちが、農業を通じて自立できるよう支援していきたい。そして、兄として誇れる仕事を成し遂げていく決意である。